

## 令和5年度幼稚園学校評価（今市幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○教育目標を具現化するように学級経営案を立案し、月計画や週計画をもとに、実践・反省・評価・改善を行い、子供の育ちを捉えた保育実践に努めた。評価、改善についてより丁寧な保育の振り返りを行っていく必要がある。	4	4	○教育目標をもとに育てたい幼児像を具体化し、意図的、計画的な保育を構想する。見通しをもって環境の構成や教材研究を行い、保育の充実を図る。 ○定期的に反省、評価、改善を加え、よりよい学級経営を行っている。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達から課題を捉えて保育を行っているか。	○子供の表情や言動を継続的に記録し、一人一人の興味関心、育ちや課題を捉え、保育に取り組んだ。また個人懇談や一中校区すこやか委員会の取組を通して生活習慣や家庭背景の把握に努め、幼児理解につなげた。	3	4	○記録を通して、一人一人の興味関心、成長の過程、発達の課題を把握し、幼児を語る会を行って職員での共通理解を図り、よりよい支援、保育の充実を努める。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○特別な支援を要する幼児の実態把握に努め、個に応じた支援を行った。今年度は記録、評価について見直しを行い、新たに支援記録・評価シートを作成して、月々の支援のあり方について明確化し、共通理解を図った。 ○保護者との連携や支援会議、関係機関との連携を細やかにし、園、保護者、関係機関が共通理解のもと支援が行えるよう努めた。	4	4	○個別の指導計画、支援記録・評価シートを活用して、一人一人のねらいを明確にし、職員で共通理解を図りながらよりよい支援を行う。早い段階から個別の支援計画を作成し、園、保護者との共通理解を図る。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、関係機関、就学前との細やかで丁寧な連携に努める。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○人権同和教育を基盤に据え、一人一人を大事にした関わり、温かい学級経営に努め、幼児の人権意識の芽生えを培った。 ○自主的に人権同和教育研修会に参加したり、園で研修会を開催したりして、自らの人権感覚を磨くよう努めた。	3	3	○幼児一人一人の人権を尊重し、互いを認め合う温かい集団づくりを行う。 ○教職員自身が自らの言動を意識し、人権感覚を磨く努力をすると共に、園内外の研修に積極的に出かけ、職員間で報告、伝達をしていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○行事のねらいを明確にし、幼児の興味関心をいかした内容を計画し、一人一人の発達の機会となるよう取り組んだ。また行事ごとに反省を行い、課題や改善点を話し合った。 ○保護者へは便りや行事に向かう過程を、写真等を使って分かりやすく伝え、共通理解が図れるよう努めた。	3	4	○行事のねらいを明確にし、幼児の興味関心をいかした内容を工夫する。反省、評価を行いながら、幼児の成長につながるようにする。 ○保護者に、行事の取組の過程や成果を分かりやすく具体的に伝え、共通理解を図る。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○幼保小交流の日の他に、授業見学や行事見学での交流を計画していたが、感染症の流行により実現できた回数は少なかった。 ○今市小校区の園長校長会を通して、互いの園校の実態、活動、様子について情報交換し、保幼小の理解を深める場となっている。 ○就学前の子供の情報共有を図り、なめらかな接続に努めた。	3	3	○保幼小連携推進基本計画に基づき、小学校とのなめらかな接続を図る（接続期カリキュラムの充実と情報共有の推進）。 ○教職員が互いの授業・保育を見合い、子供発達のカリキュラムについて学び合える、意味ある交流を工夫する。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携 幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○これまではコロナ禍のため連携の難しさがあったが、少しずつ改善できてきている。保護者は園行事への参加率が高く協力的である。愛育会活動やボランティア活動参加に積極的な保護者と就労のため参加できにくい保護者がいる。 ○地域の資源を取り入れて、自然体験、茶道・お菓子・蕎麦教室などを実施し、幼児の心身、情緒面の発達を助長する体験活動となった	3	4	○子供たちの園での様子や育ちについて、お便りや面談、行事等を通して保護者に細やかに伝え、連携を図る。 ○地域の活動に積極的に参加したり、便りやHPで情報を発信したりして地域との協力関係を築いていく。 ○未就園児教室や子育てサロン隔だまりの開催を通して、子育てについて相談しやすい雰囲気をつくる。また園児獲得につなげる。	
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○各学級が保育を公開して園内研修を行い、研究主題に基づいて幼児理解や教師の援助について研鑽を深めた。研究の取り組みや研究実践について全職員での研修の場を設けることが難しかったことが課題としてアンケート結果に表れている。 ○県や市、外部団体の研修会に積極的に参加し研鑽を深めることに努めた。	3	3	○市幼研の新主題に基づき、自園の研究主題の見直しを行い、園内研修を通して幼児理解、保育の構想、教材研究などについて実践を重ねる。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○コロナ感染症が5類に移行し昨年度と行事の数や内容が変わったり、預かり保育に対応する職員が多く、職員がそらって業務を遂行する時間が限られたりするため、計画的に実行することが難しいこともあった。声をかけ合い、協働して業務にあたれるよう努めた。	3	3	○全職員が協力して園務が遂行できるよう、見直しをもって計画的に行う。 ○管理職は、職員の心身の健康に留意し、明るく活気のある職場づくりに努め、職員が意欲と責任をもって園務に取り組めるようにする。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○安全指導年間計画に沿って、避難訓練（地震、火災、浸水、引き渡し、救命救急研修）を行った。特に地震災害の訓練について回数を増やし、職員一人一人が臨機応変に行動できるよう、いろいろな状況を想定しながら訓練にあたった。 ○感染症対策（手洗い、うがい、換気）を行い、予防、健康管理に努めた。	3	3	○様々な状況を想定した避難訓練を計画的に実施し、状況に応じて臨機応変に行動できるような危機管理能力を高めていく。 ○一中校区のすこやか委員会の取組や時期に応じた保健指導を行い、保健衛生、安全管理を行う。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月、職員で施設・設備の安全点検を行い、修理・修繕が必要な場合は速やかに対応している。雨天時の東側通路の水溜まりがひどく、今年度、保護者に協力してもらい砂利を敷いて対応した。	3	3	○定期的に園舎や遊具の安全点検を実施し、不備な箇所への対応を速やかに行う。施設の老朽化について必要な要望を継続していく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する